家庭生活の満足度は，家事の分担次第？

～ISSP国際比較調査「家庭と男女の役割」から～

世論調査部　村田ひろ子／荒牧　央

国際比較調査グループISSPが2012年に実施した調査「家庭と男女の役割」の結果から，31の国・地域を比較し，配偶者と一緒に生活している男女の家事の分担と家庭生活の満足度の関係を探った。

1週間に20時間以上家事をしている日本人は，男性で4%にとどまる一方，女性では65%に上る。男女の差は60%以上で，各国の中で2番目に差が大きい。洗たくや食事のしたくなど具体的な家事についても，日本の女性は各国と比べて主な担い手となっている割合が高い。

こうした家事の負担について，日本の女性の多くは不公平だと感じている。社会の中では男女の役割分担意識が薄れているにもかかわらず，家庭では伝統的な役割分担が固定されているために，女性が不公平感を募らせていると考えられる。一方男性も，家事分担が少ないことを自覚してはいる。

日本では，家庭生活に「満足」という人が男性で43%，女性で33%となっていて，いずれも各国の中で低い水準となっている。家庭生活の満足度に影響している項目を探るために重回帰分析を行ったところ，家事分担の公平感が家庭生活の満足度に関係していることがわかった。この結果は，夫の家事参加が増えれば不公平感が弱まり，家庭生活の満足感が高まる可能性を示唆している。

1. はじめに

（1）問題意識

世界約50の国と地域の調査機関が参加する国際比較調査グループISSP（International Social Survey Programme）が，2012年に実施した「家庭と男女の役割」の調査結果について，日本と各国の比較を行う。今回取り上げる「家庭と男女の役割」は，女性の社会進出に伴い，伝統的な性役割分担が各国で見直されるなか，女性が働くことについての意識や家庭内の役割分担，結婚に対する人々の態度を探ることを目的としており，これまでに1988年，1994年，2002年，2012年の4回実施された。

日本では，1960年代以降，農業から製造業への産業構造の変化に伴って男性のサラリーマン化が急速に進み，「夫は外で仕事，妻は家庭で家事・育児」という男女の役割分担が定着したと言われる[1)]。しかし，1970年代半ば以降共働き世帯が年々増加し，1986年に男女雇用機会均等法，1992年には育児休業法が施行されるなど，女性の雇用を後押しする施策が打ち出され，従来の性役割分担意識は徐々に薄れてきた。

ISSP調査では，家事の分担をはじめ，家庭内の夫婦の役割分担について詳細に尋ねている。前回2002年のISSP調査の日本の結果を用いた分析では，女性の家事時間が長いことや，仕事をしている女性で家事の負担感が強いことを指摘し[2)]，2012年調査の分析でも，同様の傾向が認められた[3)]。

本稿では2012年のISSPのデータを用いて，世界各国との比較において日本の男女の家事分担や負担感，さらには家事分担と家庭生活

の満足度の関係がどうなっているのかを，配偶者と生活している男女にしぼって分析する。なお，前回2002年の日本の調査は個人面接法で行ったのに対して，今回は配付回収法だったため，本報告では原則として時系列比較は行わないこととする。

（2）使用したデータ

分析に使用したデータ[4]は，ISSPの2012年調査「家庭と男女の役割」を構成するおよそ60問のうち，夫婦間の役割分担について尋ねたものなど12問である。特に記載のない場合，母数は「配偶者とともに生活している男女」とする。

調査を行ったのは37か国だが，この中から有効率が30％未満の国などを除いた30か国を分析の対象とした[5]。このうち，ドイツについては旧西ドイツと旧東ドイツ地域で別のデータになっており，分析の中でも別々の地域として扱ったため，本稿では便宜上「31の国・地域」と定義する。具体的な国名や調査方法などについては19ページ，分析に使用した質問文や選択肢は20ページに，また日本の単純集計結果は本誌2013年4月号に掲載しているので，参照されたい。

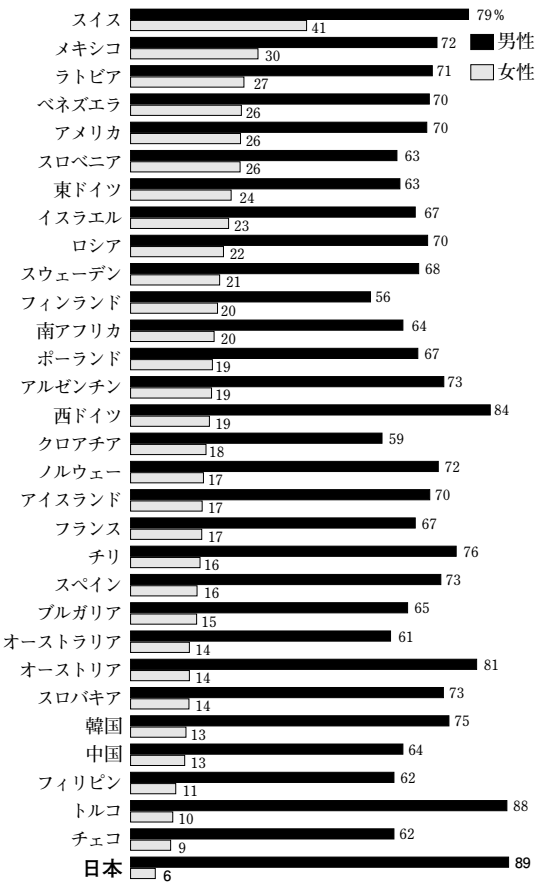
なお，集計に際しては，各国の回答傾向を把握しやすくするために「わからない」や無回答を除いて分析している。

（3）労働時間と収入の割合

分析に先立ち，配偶者とともに生活している男女の労働状況と収入について確認しておきたい。日本で「現在，仕事をしている」という男性は72％，女性については58％となっている。このうち，1週間に50時間以上働いている男性は42％となっており，31の国・地域の中で6番目に多い。一方女性については，労働時間が35時間以上の日本人は46％で全体の中で低いほうに位置しているが，34時間以下の人は54％で3番目に多い。なお本稿では，1週間に35時間以上働いている人を「フルタイム」勤務と定義する。

収入についてみると，「自分のほうが配偶者よりも収入が多い（自分だけ収入がある＋自分のほうがかなり多い＋やや多い）」という日本人は，男性が89％とトルコと並んで最も多い一方で，女性は6％にとどまり最下位である（**図1**）。

図1　収入の割合
【自分だけ収入がある＋自分のほうがかなり多い＋やや多い】



※ 女性の割合が多い順

男女差は80％超で，各国の中で最も大きい。「現在，仕事をしている」という人にしぼってみても，自分のほうが収入が多いという人の割合は，男性91％，女性8％で，全体の結果とあまり変わらない。

つまり日本では，各国と比べて長時間労働や「配偶者よりも収入が多い」という男性が多く，家庭の中で男性が稼ぎ手となっていることがわかる。一方，女性は男性の収入に依存しているという実態がうかがえる。

2. 家庭内の家事の分担

（1）日本で目立つ家事時間の男女差

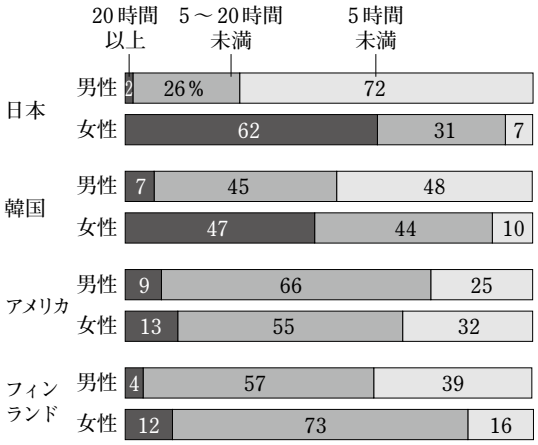
1週間にどの程度家事をしているのかについてみたところ，20時間以上家事をしている日本人は男性で4％にとどまる一方，女性では65％に上る。男女の差は60％以上で，各国の中で2番目に差が大きい。NHK国民生活時間調査[6]によれば，20歳以上の人の平日1日の家事時間は，女性で4時間25分なのに対し，男性では50分となっていて，今回のISSP調査は家事時間の男女差が大きいという点で同じ傾向を示している。

さらに家事時間について，49歳以下，50～64歳，そして65歳以上の年層に分けて分析すると，男性は50～64歳までの人で「5時間未満」が全体より多く，家事時間が少ないことがわかる。女性では65歳以上の高齢層で家事時間が少ない傾向がある。

世界経済フォーラムの男女平等度をはかるランキング[7]で，常に上位に位置しているフィンランド，先進国の中では中程度の順位となっているアメリカ，下位の韓国と日本の4か国について，フルタイム勤務の人の家事時間を**図2**にまとめた。日本では，フルタイム勤務の女性でも20時間以上家事をしている人は62％に上り，男性の2％を大きく上回る。フィンランドでも女性のほうが多いが，その差は日本ほど顕著ではない。さらに，アメリカでは男女差がなく，家事をしている男性の割合が比較的高い。これは，日本，カナダ，アメリカ，イギリス，デンマーク，オランダ，フィンランドの7か国の生活時間を比較した研究[8]における「有償労働に限らず，家事等の無償労働を含めると，7か国の男性の中で最もよく働いているのがアメリカ人男性である」という指摘を裏付けている。

日本では1988年の改正労働基準法の施行以降，年間総実労働時間が減少しているものの，特に男性で他の先進諸国と比べ，長時間労働者の割合が高い[9]。家事時間の男女差が大きいのは，日本人男性の労働時間の長さが背景にあるという知見もあるが[10]，今回の調査からは，労働時間の長い男性ほど家事時間が短いという明確な傾向は見いだせなかった。50時間以上働いている男性で家事時間が5時

図2　フルタイム勤務の人の1週間の家事時間（日本，韓国，アメリカ，フィンランド）



間未満の人は74%，50時間未満働いている男性では67%で，統計的な差はない。

（2）「家事は女性」が顕著な日本

次に，洗たくや食事のしたくなど，具体的な家事の分担についてみていく。「食料や日用品の買い物」「家族が病気のときの世話」「自宅での簡単な修理」等の家事を誰が担っているかを尋ねたところ，「いつも自分」あるいは「だいたい自分」と答えた割合は，「自宅での簡単な修理」を除き，どの国でも女性が圧倒的に多い（**表1**）。「自宅での簡単な修理」については，各国とも男性のほうが多くなっている。自宅での修理は，力仕事を伴うことが多いため，主に男性が担っているとも考えられるが，「男性は，庭仕事や家の手入れ，自動車修理など，勤務スケジュールに合わせやすい家事労働に携わることが多い」という指摘もある[11)]。

日本の女性は各国と比べて家事を担っている割合が高く，「食料や日用品の買い物」（76%），「家族が病気のときの世話」（75%），「自宅での簡単な修理」（31%）では，31の国・

表1　家事の分担【いつも＋だいたい自分】

食料や日用品の買い物

（%）	男性	女性	男女差（女－男）
日本	**7**	**76**	**69**
フィリピン	21	69	48
韓国	8	68	60
中国	13	63	50
オーストラリア	13	60	47
メキシコ	22	58	36
ロシア	10	57	47
トルコ	32	57	25
スロバキア	5	55	50
フランス	17	55	38
スイス	14	54	40
チェコ	10	52	42
南アフリカ	8	52	44
アメリカ	12	51	39
西ドイツ	13	49	36
アルゼンチン	21	49	28
オーストリア	9	48	39
ブルガリア	16	48	32
アイスランド	17	47	30
ノルウェー	18	46	28
チリ	17	44	27
ベネズエラ	29	44	15
クロアチア	17	44	27
スロベニア	9	43	34
ラトビア	10	43	33
スペイン	16	42	26
ポーランド	11	41	30
スウェーデン	17	40	23
東ドイツ	13	40	27
フィンランド	15	36	21
イスラエル	28	35	7

※ 女性の割合が多い順

家族が病気のときの世話

（%）	男性	女性	男女差（女－男）
日本	**12**	**75**	**63**
スロバキア	5	70	65
トルコ	10	69	59
韓国	8	69	61
オーストラリア	6	68	62
西ドイツ	6	67	61
フィリピン	10	67	57
南アフリカ	11	65	54
スイス	6	64	58
チリ	9	64	55
チェコ	5	64	59
アルゼンチン	10	61	51
メキシコ	17	61	44
ロシア	5	59	54
フランス	8	58	50
オーストリア	4	57	53
ベネズエラ	15	57	42
イスラエル	10	53	43
ラトビア	6	53	47
クロアチア	8	53	45
アメリカ	7	53	46
東ドイツ	5	52	47
ポーランド	4	50	46
ブルガリア	11	49	38
ノルウェー	4	49	45
スロベニア	2	47	45
アイスランド	2	46	44
スペイン	5	46	41
スウェーデン	7	45	38
フィンランド	5	44	39
中国	10	42	32

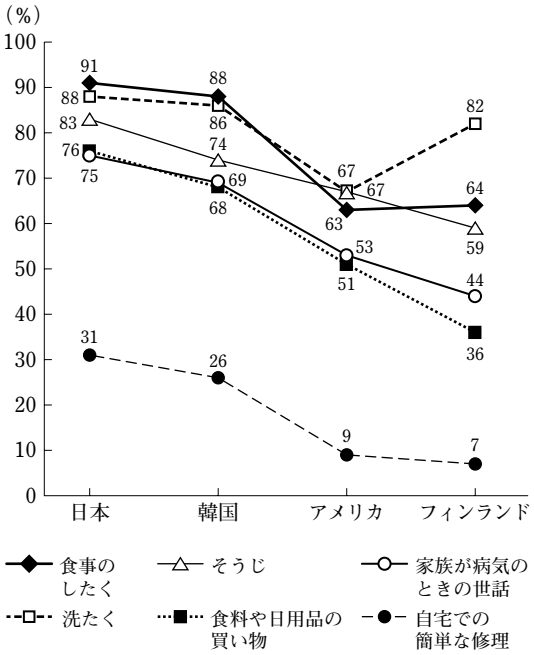
※ 女性の割合が多い順

自宅での簡単な修理

（%）	男性	女性	男女差（男－女）
日本	**76**	**31**	**45**
韓国	71	26	45
メキシコ	60	23	37
ベネズエラ	78	23	55
トルコ	78	21	57
チリ	70	20	50
スイス	83	15	68
ロシア	80	13	67
南アフリカ	81	13	68
イスラエル	79	12	67
フィリピン	80	12	68
スペイン	81	11	70
中国	75	10	65
アルゼンチン	81	10	71
オーストリア	86	10	76
アメリカ	86	9	77
アイスランド	89	9	80
西ドイツ	87	9	78
オーストラリア	85	9	76
ラトビア	84	8	76
フランス	83	8	75
クロアチア	80	7	73
スロバキア	92	7	85
フィンランド	90	7	83
チェコ	84	7	77
ポーランド	90	6	84
スロベニア	87	6	81
東ドイツ	91	5	86
ノルウェー	84	5	79
ブルガリア	75	4	71
スウェーデン	84	4	80

※ 女性の割合が多い順

図３　女性の家事の分担
【いつも＋だいたい自分】
（日本，韓国，アメリカ，フィンランド）



地域の中で最も多い。「食事のしたく」(91%)や「そうじ」(83%) といった家事でも，各国の中で上位となっている。

前述の日本，韓国，アメリカとフィンランドの4か国について，女性の家事の分担の割合を示した**(図3)**。特に「食料や日用品の買い物」「家族が病気のときの世話」で，日本とフィンランドとの違いが際立っており，日本で女性が担っている割合が高い。フルタイム勤務の女性に限っても同様の特徴があり，「(日本では) 妻が正規就業であっても，夫の家事頻度は増えない」という先行研究[12)]と同じような傾向がみられる。

（3）家事分担の公平感の男女差が大きい日本

日本では女性がさまざまな家事を担っていることをみたが，女性たちはそれを当然のことと受け止めているのだろうか。自分がしている家事の割合が，自身が適当と思う割合と比べてどう感じているかを尋ねたところ，「かなり」と「やや」を合わせた「多い」という日本人は，男性で6%だったのに対し，女性では69%に上る**(表2)**。男女差は60%以上に上り，31の国・地域の中で最も多い。前述の男女平等度のランキングで，上位の常連国となっているノルウェーやフィンランド，スウェーデン等の北欧諸国でも，女性で不公平感を抱いている人の割合はおよそ半数に上り，それぞれ男性よりか

表２　家事分担の公平感
自分がしている家事の割合は，自分が適当と思う割合と比べて，多い【かなり＋やや】

（%）	男性	女性	男女差（女－男）
日本	**6**	**69**	**63**
アルゼンチン	7	69	62
オーストリア	9	69	60
オーストラリア	13	71	58
チェコ	8	61	53
クロアチア	6	58	52
フィリピン	24	75	51
東ドイツ	3	55	52
西ドイツ	9	59	50
南アフリカ	31	82	51
フランス	12	62	50
中国	16	65	49
チリ	10	58	48
ポーランド	10	57	47
アメリカ	14	61	47
スイス	9	55	46
アイスランド	8	54	46
ノルウェー	5	50	45
フィンランド	6	50	44
ブルガリア	8	50	42
スペイン	5	47	42
ラトビア	9	49	40
ロシア	5	45	40
スウェーデン	8	47	39
スロバキア	9	47	38
スロベニア	10	46	36
メキシコ	25	60	35
ベネズエラ	43	73	30
イスラエル	17	44	27
トルコ	36	62	26
韓国	34	37	3

※ 男女差の大きい順

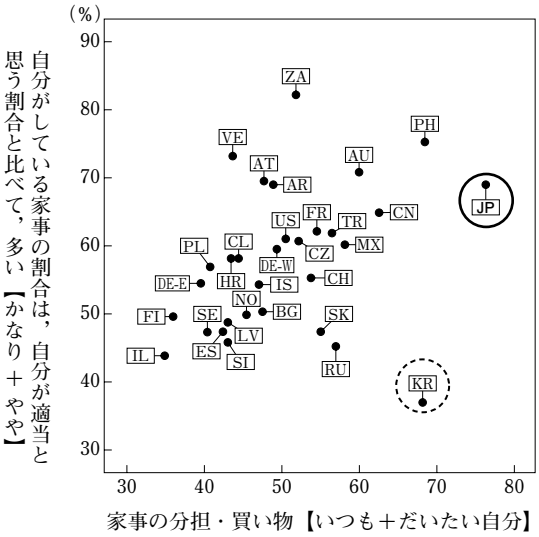
なり多くなってはいるものの，日本の女性と比べると少ない。

「日本人の意識」調査によれば，夫が台所の手伝いや子どものおもりをするのは当然，と考える日本人が40年間で大きく増えている。女性では51％から90％へ，男性でも56％から88％に増え，男女ともに性役割分担意識が薄れてきている[13]。しかし，家庭の中では相変わらず男女の分担が分かれたままである。多くの日本人の間で共有されている「家事や育児は男女で分担すべき」という意識と，家庭内の実際の役割分担がかい離しているため，依然として多くの家事を担っている女性で不公平感を抱く人が多数に上るのではないだろうか。

一方，韓国では日本同様，家事をしている女性の割合が高いにもかかわらず，不公平感は強くはない。例えば「買い物」等の家事分担と公平感の関係を分布図でみると，家事をする女性の割合が高い国で，不公平感が強い傾向がみられるなか，韓国は他の多くの国とは異なっている（**図4**）。家事分担に関する理論には，「妻が家事を『女性の仕事』とみなしている場合，不平等な家事分担は必ずしも妻の不公平感につながらない」，つまり「妻が伝統的ジェンダー・イデオロギーをもつ場合や夫の家事参加を期待していない場合，役割負担が大きい場合でも妻の不公平感は弱い」というものがある[14]。韓国の場合は，こうした理論があてはまる可能性がある。なお，韓国を分析対象から除くと，公平感と家事分担の相関係数は，「買い物」で0.522，「病気の世話」では0.491など，相関が高まる[15]。

続いて日本，韓国，アメリカとフィンランドの結果について，49歳以下と50～64歳の男女に分けてみていく。65歳以上は人数が少ないため，分析の対象としていない。自分がしている家事の割合は，自分が適当と思う割合と比べて，多い（かなり＋やや）という女性が特に多いのが日本の50～64歳で77％に上る（**図5**）。日本の女性50～64歳で，家事時間が他の年層と比べて長いわけではないにもかかわらず，不公平感が強い。一方男性では，少ない（かなり＋やや）という人が49歳以下，50～64歳ともに日本で最も多く，特に50～64歳では74％にも上る（**図6**）。日本の50～

図4　家事の分担（食料や日用品の買い物）と家事分担の公平感（女性）



AR	アルゼンチン
AT	オーストリア
AU	オーストラリア
BG	ブルガリア
CH	スイス
CL	チリ
CN	中国
CZ	チェコ
DE-E	東ドイツ
DE-W	西ドイツ
ES	スペイン
FI	フィンランド
FR	フランス
HR	クロアチア
IL	イスラエル
IS	アイスランド

JP	日本
KR	韓国
LV	ラトビア
MX	メキシコ
NO	ノルウェー
PH	フィリピン
PL	ポーランド
RU	ロシア
SE	スウェーデン
SK	スロバキア
SI	スロベニア
TR	トルコ
US	アメリカ
VE	ベネズエラ
ZA	南アフリカ

図５　家事分担の公平感（女性年層別）
自分がしている家事の割合は，自分が適当と思う割合と比べて，多い【かなり＋やや】

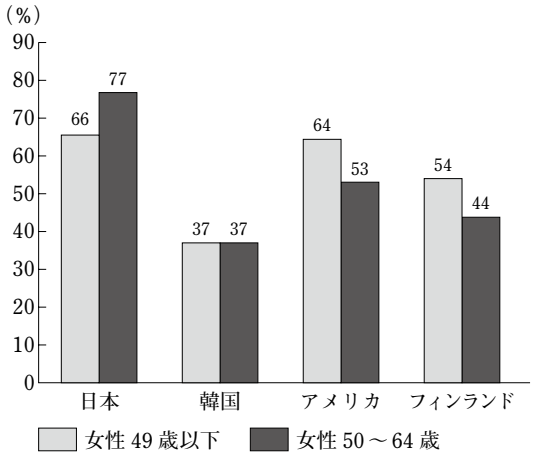
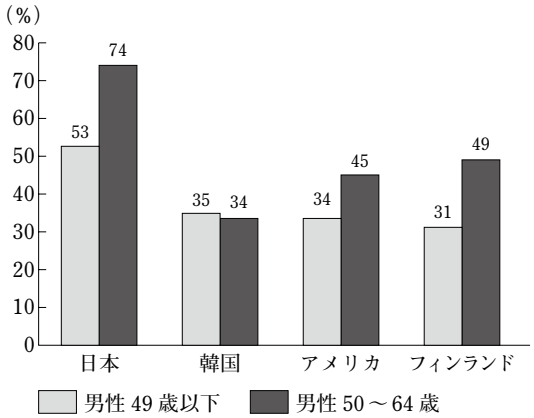


図６　家事分担の公平感（男性年層別）
自分がしている家事の割合は，自分が適当と思う割合と比べて，少ない【かなり＋やや】



64歳の女性が不公平感を募らせる一方で，同じ年層の男性の多くは，自分が担当する家事が十分ではないことを自覚しているようだ。

女性について，就労状況によって家事分担の公平感に違いがあるのかどうかをみると，日本ではフルタイム勤務の女性で，自分がしている家事の割合が「かなり多い」という人が52％と過半数に達していて，無職女性の40％より多かった。韓国，アメリカ，フィンランドでは，日本のような関連はみられなかった。

3. 家庭生活の満足度

（1）家庭生活の満足度が低い日本人

ここまで家庭内の男女の家事の分担についてみてきたが，家事の分担と家庭生活の満足度には，関連があるのだろうか。先行研究には，家計経済研究所の「現代核家族調査」から得られたデータを用いて，夫の家事参加を増やすことで，夫婦の結婚満足感が高まる可能性を指摘するものがある[16)]。つまり「夫婦の会話を増やし，夫の家事参加を増やすことで，夫と妻が互いを対等に評価するようになり，妻の役割分担の負担感が軽減されて，夫妻双方の結婚満足感が高まる可能性がある」という。ISSPの調査結果からも，家事の分担と家庭生活の満足度に関連がみられるのかどうかをみていく。

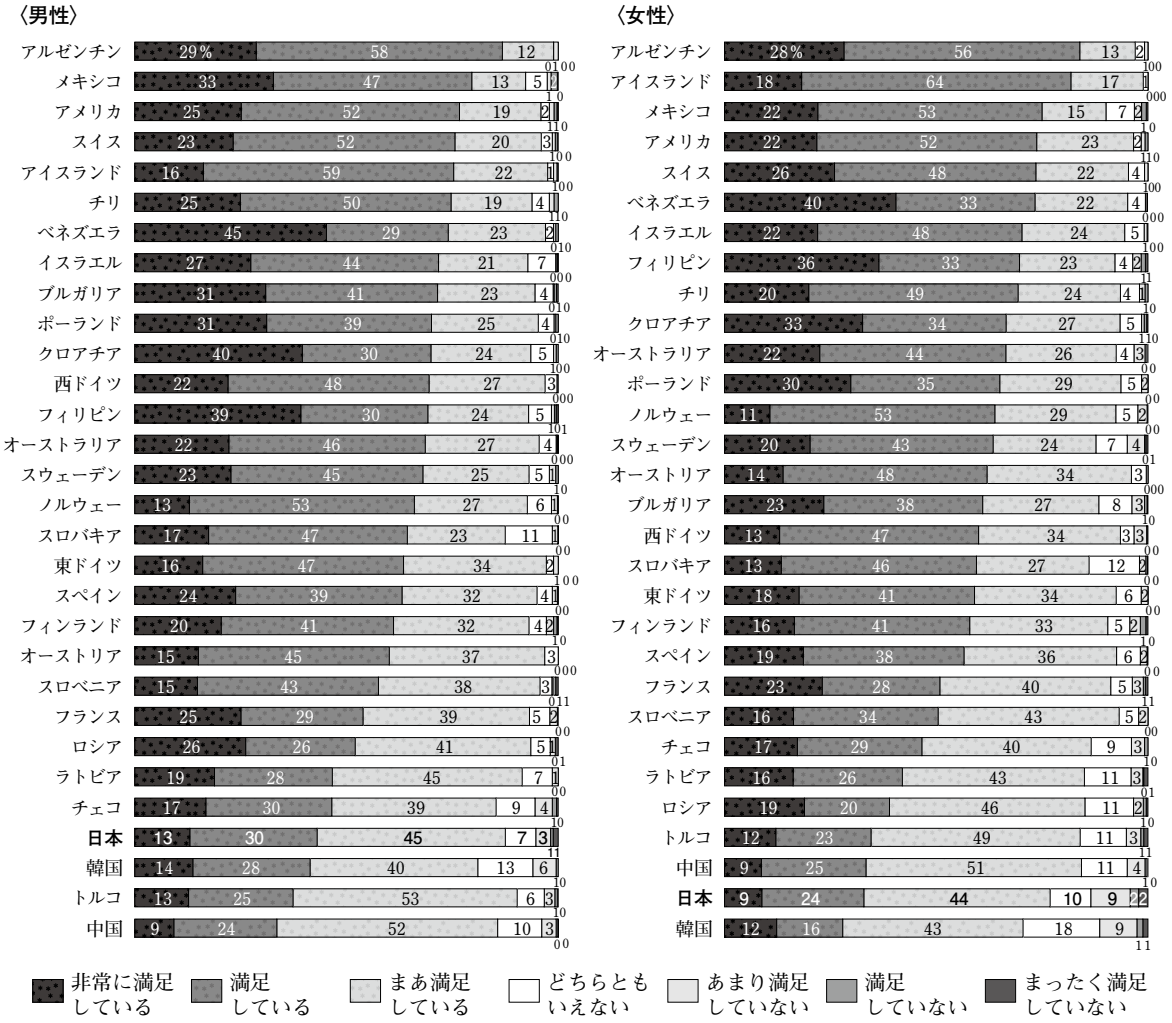
今の家庭生活について満足（非常に+満足）という日本人は，男性で43％，女性で33％となっていて，いずれも各国の中で低い水準となっている（**図7**）。また満足度の男女差が10％あり，各国の中で4番目に多い。

（2）満足度の背景にあるもの

◆全体の傾向

各国のデータを用いて，家庭生活の満足度と家事分担の項目との間に相関があるかどうかをみると，女性では，家庭生活の満足度（非常に満足+満足+まあ満足）と家事分担の項目すべてで関連がみられ，買い物や食事のしたく等の家事を自分一人で担っている人と家庭生活

図７　家庭生活の満足度



※ 非常に満足＋満足の多い順
※ 南アフリカのデータはなし

表３　家事分担と家庭生活の満足度の相関（女性）

	家庭生活の満足度	
【いつも＋だいたい自分】	非常に満足＋満足＋まあ満足	非常に満足＋満足
食料や日用品の買い物	－ 0.587	－ 0.432
食事のしたく	－ 0.570	－ 0.498
自宅での簡単な修理	－ 0.469	－ 0.270
そうじ	－ 0.397	－ 0.431
洗たく	－ 0.358	－ 0.314
家族が病気のときの世話	－ 0.354	－ 0.174

に満足な人の割合には，負の相関がある（**表3，図8，図9**）。つまり，家事を自分だけでこなしているという人の割合が高い国では，家庭生活に満足している人の割合が低い傾向がある。

逆に男性では，「自宅での簡単な修理」（0.338），「食料や日用品の買い物」（0.301）である程度の正の相関があり，こうした家事を自分で担っている男性が多い国で，家庭生活の満足度が高い人も多いという傾向がある。

図８　家事の分担（食料や日用品の買い物）と家庭生活の満足度（女性）

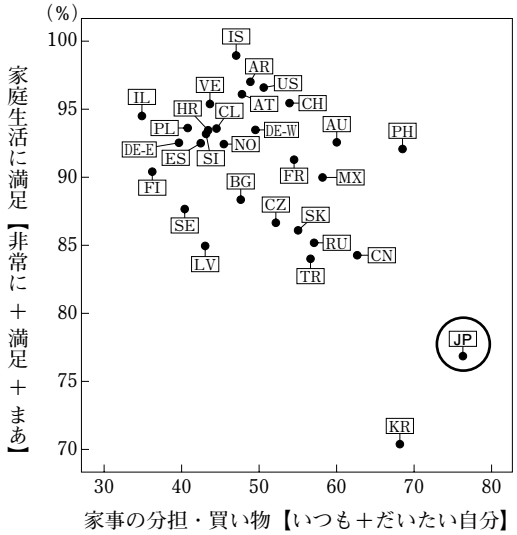
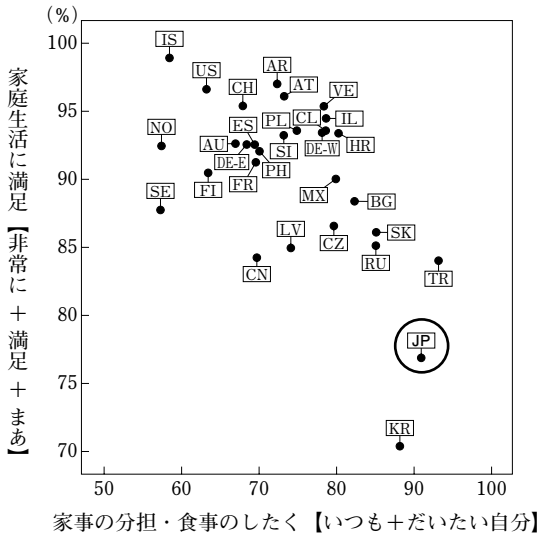


図９　家事の分担（食事のしたく）と家庭生活の満足度（女性）



AR	アルゼンチン
AT	オーストリア
AU	オーストラリア
BG	ブルガリア
CH	スイス
CL	チリ
CN	中国
CZ	チェコ
DE-E	東ドイツ
DE-W	西ドイツ
ES	スペイン
FI	フィンランド
FR	フランス
HR	クロアチア
IL	イスラエル
IS	アイスランド

JP	日本
KR	韓国
LV	ラトビア
MX	メキシコ
NO	ノルウェー
PH	フィリピン
PL	ポーランド
RU	ロシア
SE	スウェーデン
SK	スロバキア
SI	スロベニア
TR	トルコ
US	アメリカ
VE	ベネズエラ

◆国ごとの傾向

次に，日本，韓国，アメリカ，フィンランドの４か国について，家庭生活の満足度に影響している項目を探っていく。家庭生活の満足度は，夫婦間の会話の多寡や思いやりの度合いなど，情緒的な結び付きによっても左右されるだろうが，今回は調査で尋ねている質問項目から，どれだけ家庭生活の満足度をはかれるかを探る。家庭生活の満足度を従属変数として，性別や年齢，未就学児の有無，収入，そして，家事分担に関連のある項目を独立変数とする重回帰分析を行った[17]**（表４）**。

表４　家庭生活の満足度についての重回帰分析（表中の数値は，標準偏回帰係数）

独立変数	備考	日本	韓国	アメリカ	フィンランド
性別	1：女性	−0.031	−0.186**	0.085	0.049
年齢		−0.032	−0.197**	−0.054	−0.068
未就学児の有無	1：あり	0.099*	−0.059	−0.011	−0.063
小学生～17歳以下の子どもの有無	1：あり	−0.015	−0.143**	−0.044	−0.054
収入	1：世帯収入上位	0.128**	0.105**	−0.004	−0.051
収入の割合	1：自分だけ＋自分がかなり多い	0.006	−0.034	−0.070	−0.035
収入の管理状況	1：自分がすべて	−0.009	0.060	−0.031	−0.104*
	1：配偶者がすべて	−0.011	0.062	0.076	−0.035
	1：各自自分で	−0.043	−0.068	−0.186**	−0.095*
1週間の労働時間	1：34時間以下	0.008	−0.054	0.187**	0.109**
	1：35時間以上	0.018	−0.023	0.122**	0.034
家事分担	家事分担因子得点	0.036	0.066	0.045	0.069
家事分担の公平感	1：かなり＋やや多い	−0.237**	−0.105**	−0.160**	−0.241**
週末行事の決定権	1：ほとんど自分	−0.053	−0.058	−0.121**	−0.025
	調整済み R2乗	0.078	0.087	0.097	0.084
	F 値	16.466**	12.981**	12.822**	14.212**

※ $p < 0.01^{**}$　$p < 0.05^{*}$

1週間の労働時間は，「無職」の人を参照カテゴリーとして，収入の管理状況は，「共同で管理（収入すべて+収入の一部）」を参照カテゴリーとして分析している。

どの国でも，家事分担の公平感が家庭生活の満足度と関係していることがわかる。つまり，家事分担の不公平感が強いと，家庭生活の満足度が低くなる。日本では，世帯収入や未就学児の有無も関係しており，高収入な人や未就学児がいる人で，家庭生活の満足度が高くなる。韓国でも日本同様，世帯収入の高さが満足度と関係しているほか，男性や年齢が高い人，さらに小学生以上の子どもがいる人で満足度が低くなる。アメリカでは週末行事の決定権が関係していて，週末の行事を「ほとんど自分で決めている」人で，満足度が低くなる。また，1週間の労働時間が「34時間以下」も，「35時間以上」も「無職」と比べて家庭生活の満足度を高める効果があり，アメリカでは，労働時間にかかわらず，仕事をしていることが家庭生活の満足度を高めることを示唆している。フィンランドでは，収入を「自分がすべて」「各自自分で」管理している人で，「共同で管理」している人と比べて満足度が低い傾向がある。また，1週間の労働時間が「34時間以下」の人で「無職」よりも満足度が高い。

家庭生活の満足度を規定する要因は各国によって異なり，その背景についてはさらなる検討を要する。また，重回帰式の有効性の指標となる調整済みR2乗値が0.1を下回り，回帰式の説明力はそれほど高くはない。それでも，各国とも共通して家事分担の公平感が相対的に影響力を持っているということは，夫の家事参加が増えれば，不公平感が弱まり，家庭の満足感が高まる可能性があることを示唆している。

4. おわりに

日本では，依然として男性は稼ぎ手，女性が家事の担い手という家庭が多く，家事分担を不公平だと感じている女性が多いことをみてきた。フルタイム勤務の男女の比較においても，女性が圧倒的に家事を担っているのが日本の特徴である。その一方で，男性は家事分担が少ないと自覚している姿も浮かび上がった。社会の中では男女の役割分担意識が薄れているにもかかわらず，家庭では伝統的な役割分担がいまだ固定化されているために，女性は不公平感や不満を募らせているのではないだろうか。もちろん，家庭生活の満足感は家事の分担だけではかれるものではないが，男性の家事参加が増えれば，女性の不満が軽減され，家庭生活の満足度が高まるかもしれない。夫が家事や育児を「よくする」夫婦のほうが，「今後子どもを持つ予定がある」という人が多いという調査結果もある[18)]。急速な少子高齢化で生産年齢人口の減少が懸念されているなか，家事に積極的な男性が増えれば，少子化に歯止めがかかることも期待できる。

2015年8月，安倍政権は「すべての女性が輝く社会づくり」を掲げて女性活躍推進法を成立させたが，女性が雇用の場で活躍するためには，先進国の中でも長い男性の労働時間を見直し，女性の家事や育児の負担を減らす視点が欠かせない。内閣府が行った調査によれば，女性の活躍を推進する際，障害となるものは何かを複数回答で尋ねたところ，「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと」と答えた人が半数に上り最も多かった[19)]。

仕事と家庭生活を両立させるためのワーク・

ライフ・バランスを推進する制度が企業等で運用されているが，育児休暇や在宅勤務をはじめとするこうした施策は，現状では女性が利用することが圧倒的に多い。このため，こうした施策が皮肉にも「ケア提供者としての女性の伝統的な役割をしばしば意図せず強化し，男女格差を永続させる」[20] ことを懸念する向きもある。ワーク・ライフ・バランスをさらにすすめるには，長時間労働を解消し，男性の育児休暇取得を促進させるなどといった制度面の充実が必要不可欠である。それに加えて，男性が家事をしていないことを自覚するだけでなく，実際に家事を行うべく意識を切り替えられるかどうかがカギになるであろう。

本稿では，女性の家事負担の重さと家庭生活の満足度の関係を中心に分析をすすめてきた。家事分担をめぐる男性の意識と行動のかい離についての考察は，今後の課題としたい。

（むらた ひろこ・あらまき ひろし）

注：

1）NHK 放送文化研究所編，2010,『現代日本人の意識構造［第七版］』，NHK 出版
2）小林利行，2003,「意識の変化に見る「少子化の構図」～「家庭と男女の役割」に関する調査から～」,『放送研究と調査』2003 年 4 月号
3）小林利行，2013,「『結婚』や『家事分担』に関する男女の意識の違い～ ISSP 国際比較調査（家庭と男女の役割）・日本の結果から～」,『放送研究と調査』2013 年 4 月号
4）ドイツの研究機関 GESIS のデータアーカイブが 2014 年に公開したデータを使用した。
ISSP Research Group（2014）: International Social Survey Programme: Family and Changing Gender Roles Ⅳ - ISSP 2012. GESIS Data Archive, Cologne. ZA5900 Data file Version 2.0.0, doi: 10.4232/1.12022
5）配偶者の有無を尋ねる変数がないデンマーク，イギリス，台湾，また有効率が 30％未満のカナダ，インド，アイルランド，リトアニアについてはサンプルの代表性に問題があると判断し，分析対象から除いた。
6）NHK 放送文化研究所編，2011,『日本人の生活時間・2010―NHK 国民生活時間調査』，NHK 出版
7）世界経済フォーラムが男女間の格差を数値化・ランク付けした指標で，経済や教育，政治，保健の 4 分野におけるデータから算出されている。2014 年のランキングによれば，日本は 142 か国中 104 位で，先進国の中で極めて低い順位となっている。
8）品田知美，2007,『家事と家族の日常生活―主婦はなぜ暇にならなかったのか―』，学文社
9）労働政策研究・研修機構，2013,「データブック国際労働比較（2013 年版）」
10）乾順子，2011,「正規就業と性別役割分業意識が家事分担に与える影響―NFRJ08 を用いた分析―」，田中重人・永井暁子編　第 3 回家族についての全国調査（NFRJ08）第 2 次報告書 1『家族と仕事』日本家族社会学会全国家族調査委員会
11）OECD，2012,“Closing the Gender Gap：Act Now”（＝ 2014，濱田久美子訳『OECD ジェンダー白書―今こそ男女格差解消に向けた取り組みを！―』，明石書店）
12）乾　前掲
13）NHK 放送文化研究所編，2015,『現代日本人の意識構造［第八版］』，NHK 出版
14）不破麻紀子・筒井淳也，2010,「家事分担に対する不公平感の国際比較分析」,『家族社会学研究』，22（1）
15）韓国を含めた相関係数は,「買い物」で 0.336,「病気の世話」で 0.362。
16）竹内真純，2007,「夫のサポートが夫婦の結婚満足感を高める」，永井暁子・松田茂樹編『対等な夫婦は幸せか』，勁草書房
17）家庭生活の満足度は,「まったく満足していない」を 1 点,「非常に満足している」を 7 点とした。収入は，各国の中央値より高いものを「世帯収入上位」として扱っている。また，家事分担に関連のある項目のうち，洗たくや自宅での簡単な修理等の具体的な家事については，解釈を容易にするために因子分析を行い，因子得点を変数として計算を行った。因子抽出方法については主因子法，因子の回転についてはプロマックス法を用いた。
18）国立社会保障・人口問題研究所，2014,「第 5 回全国家庭動向調査（2013）」。妻の年齢が 40 歳未満について集計した結果。
19）内閣府，2014,「女性の活躍推進に関する世論調査」
20）OECD　前掲

各国調査の概要

	調査年	年齢範囲	有効回答数	分析対象とした「配偶者と一緒に生活している人」の数	調査方法	サンプリング方法	ウエイト集計
アイスランド	2013 ～ 2014	15 歳～	1,175	748	面接（一部 CASI）	層化／個人	○
アメリカ	2012	18 歳～	1,313	794	面接（CAPI）	層化 4 段階以上／住所（Kish 法）	○
アルゼンチン	2012 ～ 2013	18 歳～	977	546	面接	層化 3 段階／地域（誕生日法）	○
イスラエル	2011 ～ 2012	18 歳～	1,220	794	面接	層化 4 段階以上／住所（Kish 法）	なし
オーストラリア	2012 ～ 2013	18 歳～	1,612	1,076	郵送	層化／個人	○
オーストリア	2013	18 歳～	1,182	688	面接（CAPI）	層化 2 段階／個人	○
韓国	2012	18 歳～	1,396	813	面接	3 段階／世帯（誕生日法）	なし
クロアチア	2013	18 歳～	1,000	619	面接（CAPI）	層化 3 段階／世帯（誕生日法）	○
スイス	2013	19 歳～	1,237	817	面接（CAPI）	層化／個人	○
スウェーデン	2012	18 歳～	1,060	707	郵送	単純／個人	なし
スペイン	2012	18 歳～	2,595	1,703	面接	層化 2 段階／個人	なし
スロバキア	2012	18 歳～	1,128	669	面接（CAPI）	3 段階／世帯（誕生日法）	○
スロベニア	2012	18 歳～	1,034	655	面接（CAPI）	層化 2 段階／個人	なし
チェコ	2012	18 歳～	1,804	1,148	面接	層化 4 段階以上／住所（Kish 法）	○
中国	2012	17 歳～	5,946	4,919	面接	層化 4 段階以上／世帯（Kish 法）	○
チリ	2012	18 歳～	1,564	850	面接	層化 3 段階／その他（Kish 法）	○
ドイツ（西）	2012	18 歳～	1,208	771	CASI（一部 CAPI）	層化 2 段階／個人	なし
ドイツ（東）	2012	18 歳～	558	367	CASI（一部 CAPI）	層化 2 段階／個人	なし
トルコ	2013	17 歳～	1,620	1,117	面接	層化 3 段階／住所（Kish 法）	なし
日本	2012	16 歳～	1,212	761	配付回収	層化 2 段階／個人	なし
ノルウェー	2012	18 ～ 79 歳	1,444	1,034	郵送・WEB	単純／個人	なし
フィリピン	2012	18 歳～	1,200	887	面接	層化 4 段階以上／地域（Kish 法）	○
フィンランド	2012	15 ～ 75 歳	1,171	801	郵送・CASI	層化／個人	○
フランス	2012	18 歳～	2,409	1,566	郵送	2 段階／世帯（誕生日法）	○
ブルガリア	2011	18 歳～	1,003	618	面接	3 段階／地域（誕生日法）	○
ベネズエラ	2013	16 歳～	1,016	421	面接	層化 3 段階／地域（Kish 法）	○
ポーランド	2013	18 歳～	1,115	707	面接（CAPI）	層化 3 段階／個人	○
南アフリカ	2012 ～ 2013	16 歳～	2,547	1,061	面接	層化 3 段階／世帯（Kish 法）	○
メキシコ	2013	18 歳～	1,527	928	面接	層化 3 段階／地域（Kish 法）	なし
ラトビア	2013	18 ～ 75 歳	1,004	548	面接	層化 3 段階／世帯（誕生日法）	○
ロシア	2012	18 歳～	1,525	778	面接	層化 4 段階以上／住所（誕生日法）	○

【補足】

調査方法

＊ CAPI…Computer Assisted Personal Interview の略。コンピューターを使いながら行う聞き取り調査。

＊ CASI…Computer Assisted Self-administered Interview の略。調査相手にコンピューターを提示し，回答してもらう調査。

サンプリング方法

＊個人…個人（調査相手）を直接抽出する。

＊世帯…名簿等から世帯を抽出した後に，個人を抽出する。

＊地域…地域の範囲や建物などを抽出した後に，個人を抽出する。

＊Kish 法／誕生日法…地域や世帯を抽出した後，個人を抽出するために用いられる手法。
Kish 法は乱数表から，誕生日法は調査時に最も誕生日が近い人などを抽出する。

データの取り扱いについて

- ドイツは，旧西ドイツ地域と東ドイツ地域に分けて調査が実施されているため，データは合算せずに，それぞれ集計している。

分析に使用した項目

―一週間の家事時間―

あなた自身のことについてうかがいます。あなたは，一週間に何時間くらい家事をしていますか。育児や余暇の時間を除いてお答えください。

―収入の管理状況―

お宅の収入はどのように管理していますか。最もあてはまる番号に１つだけ○をつけてください。

1. 自分がすべて管理し，配偶者（パートナー）には必要なだけ渡している
2. 配偶者（パートナー）がすべて管理し，自分は必要なだけもらっている
3. 収入はすべて共同で管理し，それぞれが必要なだけ持っていく
4. 収入の一部を共同で管理し，残りは２人が別々に持っている
5. ２人とも自分の収入は，自分で管理している

―家事分担―

次のａからｆのような家事は，お宅では誰がしていますか。それぞれについて１つずつ○をつけてください。

a. 洗たく
b. 自宅での簡単な修理
c. 家族が病気のときの世話
d. 食料や日用品の買い物
e. そうじ
f. 食事のしたく

1. いつも自分
2. だいたい自分
3. ２人が同じくらい，または共同で
4. だいたい配偶者（パートナー）
5. いつも配偶者（パートナー）
6. ２人以外の人
7. わからない

―家事分担の公平感―

あなたは，配偶者（またはパートナー）との家事分担の割合についてどう感じていますか。あなた自身が，適当と思う割合と比べてどう感じているか，あてはまる番号に１つだけ○をつけてください。

自分がしている家事の割合は・・・

1. かなり多い
2. やや多い
3. 適当だ
4. やや少ない
5. かなり少ない

―週末行事の決定権―

配偶者（またはパートナー）との週末の過ごし方について，最終的に決めるのは誰ですか。あてはまる番号に１つだけ○をつけてください。

1. ほとんど自分
2. ほとんど配偶者（パートナー）
3. そのときにより自分か，配偶者（パートナー）
4. 自分と，配偶者（パートナー）の２人で
5. ２人以外の人

―収入の割合―

あなたと配偶者（またはパートナー）では，どちらが収入が多いですか。あてはまる番号に１つだけ○をつけてください。

1. 自分だけが収入がある
2. 自分の収入のほうがかなり多い
3. 自分の収入のほうがやや多い
4. 同じくらい
5. 配偶者（パートナー）の収入のほうがやや多い
6. 配偶者（パートナー）の収入のほうがかなり多い
7. 配偶者（パートナー）だけが収入がある
8. わからない

―家庭生活の満足度―

あなたは，今の家庭生活について，全体としてどのくらい満足していますか。あてはまる番号に１つだけ○をつけてください。

1. 非常に満足している
2. 満足している
3. まあ満足している
4. どちらともいえない
5. あまり満足していない
6. 満足していない
7. まったく満足していない
8. わからない

以下，属性質問

―労働時間―

あなたは時間外も含めて，ふだん１週間に何時間くらい仕事をしていますか。２つ以上，仕事をお持ちの場合は，すべての労働時間を合算してお答えください。また，病気，育児休職，休暇，ストライキなどで一時的に仕事をしていない方は，ふだんの状況についてお答えください。

―配偶者と一緒に生活しているか―

あなたには現在，配偶者（またはパートナー）がいますか。また，いる方は，その相手と一緒に生活していますか。あてはまる番号に１つだけ○をつけてください。

1. 配偶者（パートナー）がいて，一緒に生活している
2. 配偶者（パートナー）がいるが，一緒に生活していない
3. 配偶者（パートナー）はいない

―一緒に生活している人数―

あなたご自身も含めて，一緒に生活している方は何人ですか。

a. 18 歳以上
b. 6 歳以上 17 歳以下
c. 5 歳以下

―世帯年収―

あなたのご家庭の去年１年間の収入は税込みでいくらでしたか。臨時収入，副収入，一緒に生活している方の収入を含めて，あてはまる番号に１つだけ○をつけてください。

1. 200 万円未満
2. 200 ～ 300 万円未満
3. 300 ～ 400 万円未満
4. 400 ～ 500 万円未満
5. 500 ～ 600 万円未満
6. 600 ～ 700 万円未満
7. 700 ～ 800 万円未満
8. 800 ～ 900 万円未満
9. 900 ～ 1,000 万円未満
10. 1,000 ～ 1,200 万円未満
11. 1,200 ～ 1,500 万円未満
12. 1,500 万円以上